

## 寺社を巡る会

# 活動記録書

開催日：令和4年9月9日(金)天候 曇り	開催テーマ：20周年記念講演会 「鎌倉草創 修羅の大河を行く」 ～頼朝、政子、そして義時の軌跡～ 相澤 孝之(鎌倉ガイド協会会員)
開催場所：金沢公会堂 多目的室	記入者：金久保 常二
参加人数： 会員 29名 準会員 8名 ビジター1名 計 38名 鎌倉ガイド協会(講師他) 計 2名 合計 40名	
<b>実施内容(実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など)：</b> 「寺社を巡る会」は平成14年(2002)5月に15名の会員で発足した。平成23年(2011)には10周年、平成29年(2017)には15周年を迎え、それぞれの記念行事を実施した。令和3年度(2021)で20年を経過し、この度20周年記念行事のひとつとして、相澤孝之(鎌倉ガイド協会)講師をお招きして、NHK大河ドラマが放映されて話題となっている「鎌倉殿の13人」に関連した講演会を開催した。  平治の乱に敗れ、源頼朝は伊豆に配流。北条家の支援のもと、平家打倒の兵を挙げるが「石橋山の戦い」に敗れて安房に渡海。上総介広常らの援軍を得て、鎌倉に入り本拠とする。以後「鎌倉殿」と呼ばれる。領地を安堵された御家人は、その御恩を報いるため命をかけて奉公した。 北条宗時が目指したのは坂東武者の世にし、そのトップに北条が立つ事だった。しかし宗時は石橋山で戦死し、義時は否応なしに鎌倉政権のために働くことになる。 頼朝死去(1199)後、北条氏と比企氏による頼家の後継者を巡る争いが表面化。時政は能員を自邸に招き殺害。頼家は伊豆修善寺に幽閉、後に暗殺された。 時政と牧の方の強引なやり方に対し、御家人達の中に蟠りが広がる。義時と政子は実朝を手中に入れ、時政に引退を言い渡す。御家人達は皆、義時と政子を支持し、時政は伊豆へ。執権義時と尼御台の体制になった。また実朝は「将軍親裁」目指して朝廷との関係を安定させる。 しかし、建暦3年(1213)2月、比企氏に近い泉親衡が義時に謀反を企てる。義盛の子や甥の加担が発覚。両者間の火種となる。数々の因縁の末、義盛は同年5月に蜂起して、2日間にわたる鎌倉市街地での戦闘で、義盛は力尽き、和田氏は滅亡した。鎌倉初期最大の武力抗争「和田合戦」であった。 実朝暗殺事件(1219)は謎が多い。義時は事前に知っていたことが伺えるが、北条氏にとって大事な将軍で守るべき立場のはず。三浦義村は公暁の乳母夫の立場であるが公暁を討った。 承久の乱(1221)では政子の御家人を鼓舞する演説の効果は絶大であった。義時は直ちに出兵を決断し、後鳥羽上皇軍に勝利、幕府の力はさらに強まった。尼御台政子と執権義時は時代の支持を得た姉弟であったと言える。 また「子」を付ける名前は、皇后・中宮・内親王の朝廷のトップクラスの女性のみだった。「政子」は1218年(頼朝の死後18年後)に従三位を賜った際に朝廷より賜った名前である。との説明は興味深く聞いた。 限られた時間の中で、頼朝・政子・義時の話をわかりやすくまとめていただいた。	
<b>参加者の状況・意見など：</b> 今回の20周年記念行事は、新型コロナの感染が終息しない中で開催した。参加者には多少不安はあったと思われるが40名もの参加者があった。 今回、相澤講師に快諾して頂き、テーマに合わせて参考になるお話をお聞きでき、とても勉強になった。さらに、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」をより楽しむことが出来るだろう。	
<b>次回の予定：</b> 令和4年10月6日(木)10時 大道中学校前バス停集合 テーマ:「鎌倉武士(もののふ)たちも歩いた塩の道」	
<b>その他：</b> 講演会終了後は龍華寺客殿に於いて、20周年記念懇親会を開催。会員・準会員31名に加えて鎌倉ガイド協会、横浜金澤シティーガイド協会からも各1名の参加をいただき、盛会だった。	